

49 ミズゴマツボ

(ミズゴマツボ科)

兵庫県ランク:A

Stenothyra japonica

環境省ランク:VU

種の概要

東北から四国・九州に分布し、大潮時に潮が低層に入り込む感潮域上部、あるいは感潮域に近いレベルの流れのほとんどない河川や水路、浅い池や溜まりなどに生息する。多種の貝類が生息するような場所では、むしろ見られにくく、多くは本種のみ、あるいは貧酸素でも生息できる有肺類との産出が多く、生息環境が特定しにくい種類である。多産箇所もあるが、各府県における既知産地は少ない。殻形は卵形に近く、殻長5~6mmになり、次のエドガワミズゴマツボ(貝類Cランク)よりも大きい。体層には明瞭な10本強~15本ほどの刻点列彫刻がある。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○		○	○

県内分布

赤穂市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。唯一、赤穂市の1河川の下流域でのみ確認されている。本産地は河口が水門によりほぼ閉鎖されており、流れはほとんどない。同所的にサカマキガイやヒメモノアラガイ、底床付近に本種とヤマトシジミ(貝類Cランク)の若齢個体が生息する程度である。河口近くのカワザンショウ類が生息する辺りでは生息が確認できない。

保護上の留意点

1河川でしか確認されていないことから、既知産地の保全を優先すべきである。生息域下流側の河川形態や水の性状は勿論、上流側に広がる水田地帯からの栄養塩の流入も、本種にとっての良好な環境を形成していると考えられるので、広域的な保全が必要と考えられる。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修